

イベントの実行を確認する

コンソールとアラートで日付を表示しよう

☆☆☆

制作目標時間：10分

js-001

WORK

コンソールとアラートで日付を表示しよう

課題目的

今後JavaScriptでの開発時に、エラーや挙動の不具合等を自己解決する為の道しるべになるデバッグ方法（プログラムの誤り「バグ」を探し、取り除くこと）を身につける

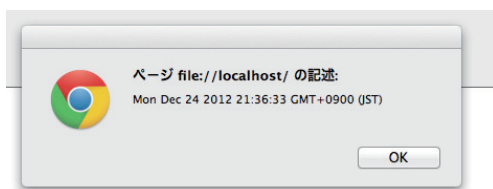
課題要項

- 1：cssフォルダ内にあるcssファイル（style.css）を読み込みましょう
- 2：jsフォルダ内にあるjsファイル（script.js）を読み込みましょう
- 3：divタグにマウスオーバーとクリックのイベントを登録しましょう
- 4：コンソール表示は「`console.log()`」、アラート表示は「`alert()`」です
jsファイルに記述し、関数化しましょう
- 5：日付の取得は「`new Date()`」で取得しましょう
- 6：不要な改行・インデントなどを意識して、綺麗なソースを心掛けましょう

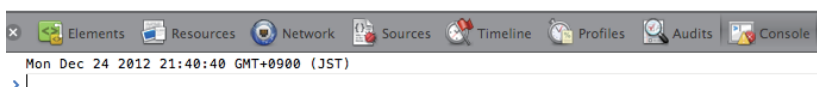
サンプル

表示完成例

・アラート表示



・コンソール表示



WORK

コンソールとアラートで日付を表示しよう

作業手順

1：index.htmlにcssフォルダ内のstyle.cssとjsフォルダ内のscript.jsを読み込む

css、JavaScriptファイルは、js001_dataフォルダ内のcssフォルダ、jsフォルダでそれぞれ管理しています。
※js001_dataフォルダ内で作業してください。

2：HTML上のdivタグにマウスオーバーイベント、クリックイベントを記述 関数名（自由に名前を付ける 例：showAlert(), showConsole()）を登録する

showAlert() ← divタグをクリックした時の関数とします
showConsole() ← divタグをマウスオーバーした時の関数とします

関数名は自分で自由に名前を付ける事ができます。

しかし、一番初めの文字に数字を付ける事は出来ません。

また、「a」や「b」などを付けてしまうと一目見ただけでは何をしている関数か分からなくなります。

自分や他の人がいつ見ても処理内容が分かりやすい記述にしましょう。

上記の関数名ですと、showAlert()はアラート表示、showConsole()はコンソール表示と分かりやすいかと思います。

※その他、予約語と言われるJavaScriptで元々準備されている単語は使用する事が出来ません。

それを避ける為に単語の区切りを大文字（キャメルケースと呼ばれています）にしたり、アンダーバーを付けたりします。

予約語例（一部抜粋）：break, case, catch, continue, default, delete, do, else

3：（2）で登録した関数名と同じ名前で、jsファイルに関数の実態を記述する

4：作った関数の中にアラートの処理、コンソールの処理を記述する

【consoleでの確認について】

- ・Chrome → Window上で右クリックをして「要素の検証」、consoleタブを選択
- ・Firefox → 拡張機能アドオンで「FireBug」をブラウザにインストールして使用

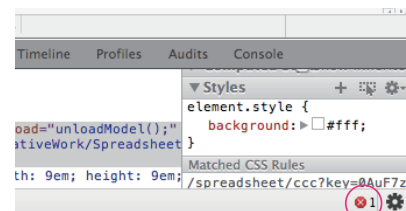
consoleタブをアクティブにして表示を確認して下さい。

使用記述方法が間違っている場合は、consoleにエラー表示が出ます。

記述例)

console.log(出力したい値);

alert(出力したい値);



コンソールエラーはこのような赤いアイコンで表示されます。

エラー内容はコンソールパネルに表示されます。

5：アラートの処理、コンソールの処理の中で日付オブジェクトの取得を記述する

取得した日付オブジェクトを変数に代入し、それをコンソールとアラートで表示してみましょう

6：完成後はトレーナーのチェックを受ける